

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
株主確定基準日 (1)定時株主総会・期末配当 3月31日
(2)中間配当を実施する場合 9月30日
(3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 および お問合せ先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)
単元株式数 100株
公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html>
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

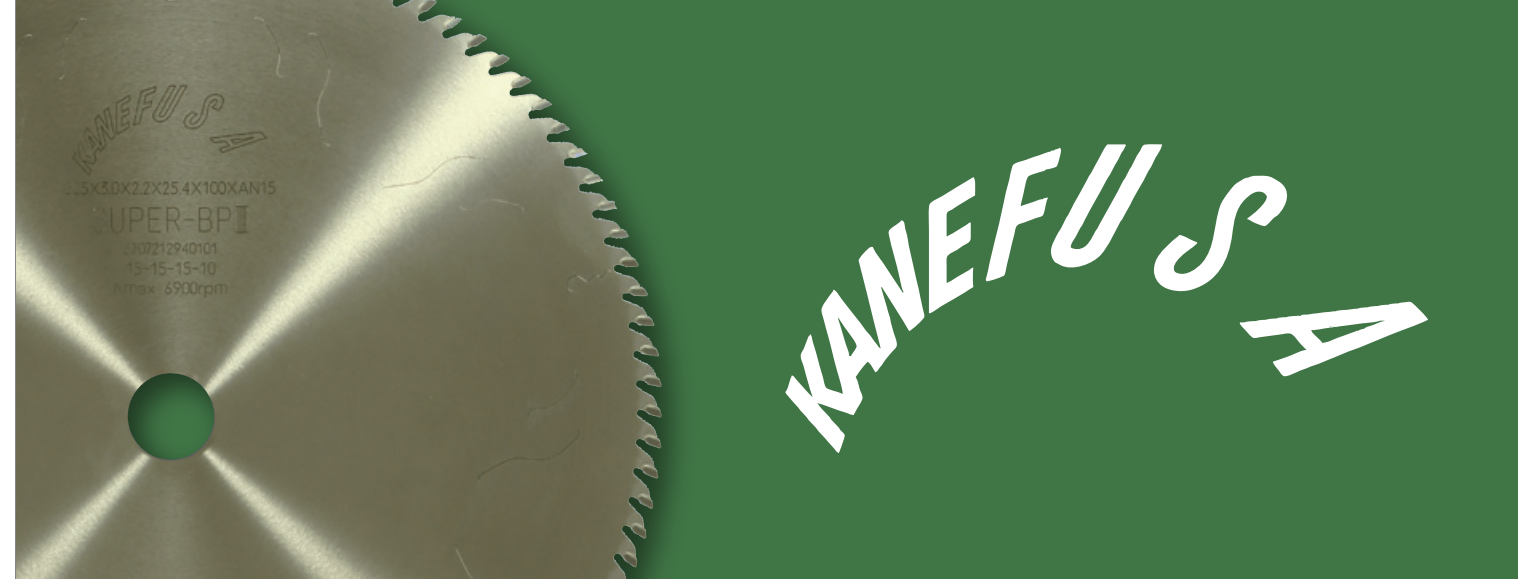
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社
連絡先 〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(通話料無料)

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



株主・投資家の皆様へ

第68期 報告書

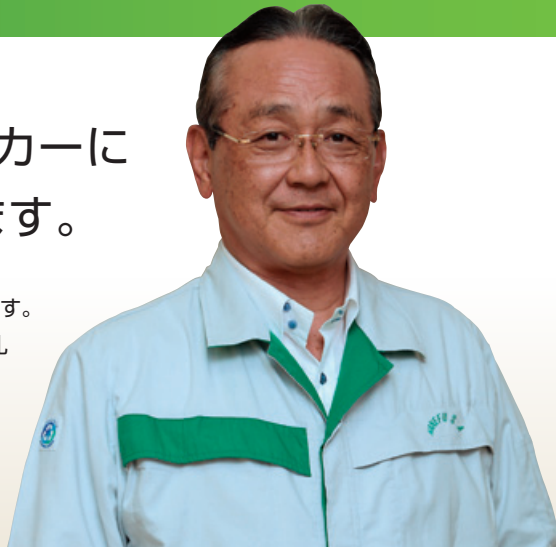
平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日



業績は足踏みするも、世界のトップメーカーに向けて着実に前進できた1年だと思えます。

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第68期事業報告書をお届けするにあたり、日ごろのご支援・ご鞭撻に対し、重ねてお礼申し上げます。今後のカネフサの取り組みにご注目いただくとともに、引き続きご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

取締役社長 **渡邊 将人**



Q 2016年3月期の業績についてお聞かせください。

米国では雇用・所得環境の改善により、緩やかに景気拡大が続きましたが、中国経済の減速や資源価格下落等による影響を受けた1年でした。昨年末を底に、受注状況は若干上向いてきていますが、このところの円高傾向もあり、楽観を許さない状況が続いています。

国内市場では、シェアの拡大による実績確保を目指しましたが、苦戦を強いられました。シェアは堅持できましたが、主要取引先である住宅関連メーカーにコスト削減の動きが強まり、お客様の操業度低下や刃物交換頻度の抑制に伴い受注量が低下する結果となりました。特に、利益率の比較的高い、量産可能な製品や製造工程が自動化されている製品の売上が低調だったため、売上の落ち込み以上に利益の低下が顕著に出てしまいました。

中国については、日本・ヨーロッパ向けの輸出が減少したことから、前期比マイナスとなりましたが、中国国内マーケットは底堅く伸びています。不動産バブルの崩壊など不安要素はありますが、取引先の選定基準を高く設定し、「信頼できる会社」とつきあって

きたことが奏功していると考えています。

米国市場は他エリアに比べて景気がいいと言われていますが、アメリカだけが特別な存在であるはずもなく、当社の業績も伸び悩みました。ただし自動車産業については引き続き活況で、南部エリアへの関連産業の集積が進んでおり、この動きに対応するため、アトランタに営業拠点を新設しました。地の利を活かして効率的な市場開拓を進めます。

ヨーロッパ市場は概ね堅調に推移しました。為替の影響を受け、円建てでは前期比マイナスとなりましたがユーロ建てでは前期を上回りました。欧州での実績は、競合のドイツメーカーに勝つことを意味し、それは世界の市場で信頼性向上につながります。ロシアに関してはルーブル安で国内経済が厳しい環境にあるものの、引き続き底堅い需要が見込まれることから、モスクワに営業拠点を開設し、現地での信頼関係づくりを進めています。

インドネシアでは木工関連刃物を中心に前年を上回る成果を残しました。

新興国市場であるブラジルは治安や政情不安など様々なリスクもありますが、徐々ながら売上は伸びてきている感覚はあります。

これらの結果、2016年3月期の売上高(連結ベース)は182億9千4百万円(前期比1.2%減)、営業利益14億2千万円(前期比26.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は6億8千4百万円(前期比48.0%減)となりました。

Q 中期経営計画2年目の手ごたえと3年目に向けた取り組みについてお聞かせください。

上場以来、過去最高益を計上した前期から一転、数字的には厳しい1年でしたが、世界トップメーカーへの「飛躍」と「責務」をテーマに、それにふさわしい会社となるべく、製品・サービス・人材のすべての面で根本から見直していこうという取り組みに関しては、一切ブレずに着実に進めてこれたと思えますし、レベルアップができています。厳しい環境の中、相対的にカネフサのシェアは高まってきていると感じており、それに併せてトップメーカーならではの「責務」の大きさもひしひしと感じています。お客様から「カネフサさん、頼むよ!」との声を聞くにつけて、カネフサが刃物メーカーとして世界市場から期待されていることを実感します。

カネフサが存在価値を高めているのは、優れた品質と技術力とともに一歩先への投資を継続的に行ってきたからだと考えています。

この数年、当社は売上の10%を超える設備投資を行ってきました。インドネシアの新工場、本社オフィスのワンフロア化など、それらの投資はカネフサの今を支え、更なる飛躍、未来の利益につながっていくと確信しています。2015年12月末には「第三精密工場」を新設しました。ここでは、これまで以上に精度を必要とする加工技術を開発・提供していきます。これによって、カネフサは「素材加工」の領域から「仕上げ加工」の領域にもフィールドを広げることができ、自動車部品メーカーなどとの技術交流も今後拡大すると期待しています。

次期の中期経営計画最終年度には、売上高200億円の達成を目

標にしたいですね。この業界での200億円達成は1つの壁です。これを超えることで、これまでと違った展開が見えてくると思えますし、人心一新という意味でも、新たな飛躍へのエネルギーを手に入れたいと考えています。

Q 最後になりましたが、株主の皆様にごメッセージをお願いします。

前期の増収増益から一転、減収減益の結果となってしまい、誠に申し訳ございません。為替の影響は如何ともし難い側面があり、設備投資に伴う減価償却費の増加は、未来の利益につながるものです。

今後も、真の世界トップメーカーを目指し、株主の皆様にもご納得いただける結果に向け、全社を挙げて取り組んでいく覚悟です。どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願いします。



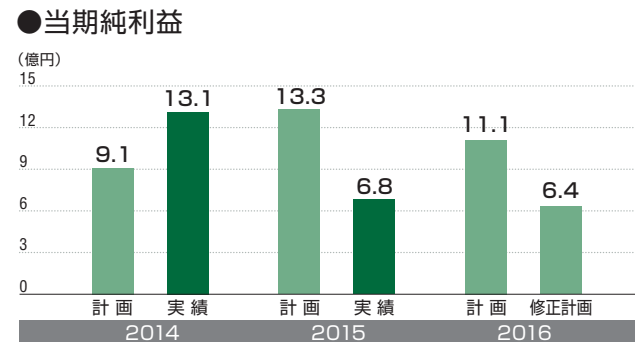
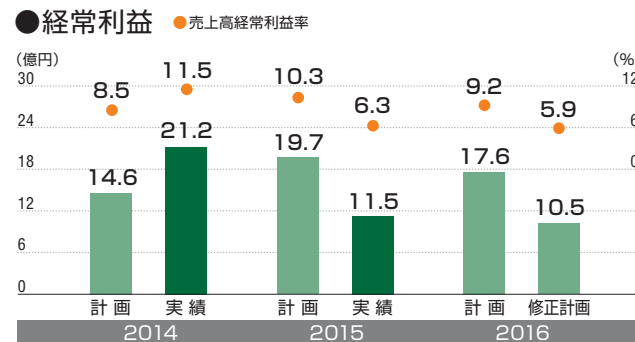
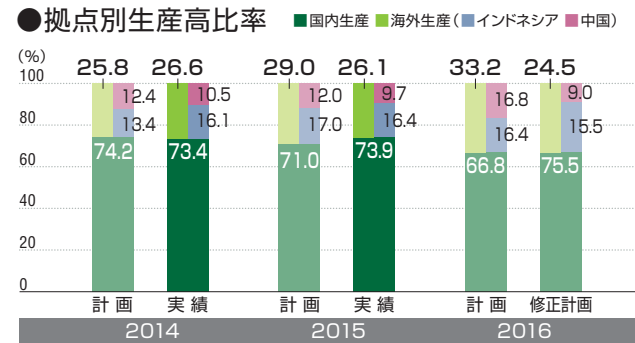
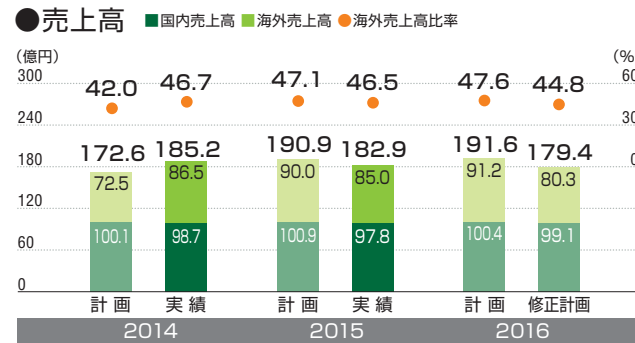
免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただきますようお願いいたします。

世界トップメーカーへの「飛躍」と「責務」

中期経営計画は、兼房グループ売上高200億円の早期実現に向けた「新たな成長戦略へのスタート」と位置づけます。当社の活動すべてを業界トップメーカーとして目標とされるものに高め、全社員がプロフェッショナルとしての誇りを持ち、目標を100%達成する強い信念と迅速な行動で各課題に対応することで、世界トップメーカーとして確固たる地位を築き上げます。

経営目標



2015年度業績のポイント

売上高は、前年度比1.2%減少、
営業利益は同26.7%減少、
経常利益は同45.8%減少
となりました。

売上高

国内は前年度比0.9%減少しました。これは、住宅関連刃物の減少が主な要因です。
海外は、前年度比1.6%減少しました。為替の影響を除く実質ベースでは合板用、紙工用、金属切断用刃物などが堅調に推移しましたが、円高の影響を大きく受けたことにより、円換算額で減少となりました。

利益

利益率の良い一部製品の売上が減少したことや、売上原価の増加により、営業利益が減少しました。売上原価の増加は、近年、生産性向上や競争力強化のため積極的に設備投資を進めていることにより、減価償却費が増加したことが主な要因です。
また、急激な円高進行により為替差損を計上したことが影響し、経常利益も減少しました。

(単位: 百万円)

地域別売上高	2014		2015		2016		
	計画	実績	計画	実績	計画	修正計画	
国内	10,010	9,875	10,090	9,785	10,040	9,910	
海外	アジア	3,920	4,772	4,970	4,634	4,850	4,320
	アメリカ	1,460	1,807	2,050	1,861	1,810	1,740
	ヨーロッパ	1,730	1,887	1,830	1,824	2,270	1,820
	その他	140	183	150	188	190	150
海外合計	7,250	8,650	9,000	8,508	9,120	8,030	
総合計	17,260	18,525	19,090	18,294	19,160	17,940	

(単位: 百万円)

製品別売上高	2014		2015		2016	
	計画	実績	計画	実績	計画	修正計画
平刃類	5,500	6,372	6,370	6,395	6,030	5,910
精密刃具類	3,910	3,915	4,000	3,811	4,090	3,920
丸鋸類	7,650	7,961	8,440	7,817	8,820	7,890
商品	200	275	280	269	220	220
総合計	17,260	18,525	19,090	18,294	19,160	17,940

概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では雇用・所得環境の改善によって家計部門が牽引する緩やかな景気拡大基調が続き、欧州でも堅調な個人消費が景気を下支えしていますが、中国経済減速、原油等資源価格下落、米国利上げによって、新興国経済は景気減速・自国通貨下落等、多大な影響を受けています。一方、わが国経済は、個人消費が弱含む中、回復基調にあった企業業績も年明けから急速に進行した円高によって下振れしており、景気回復への踊り場局面が依然続いています。

このような状況の下、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、主に住宅関連刃物などが前年同期から減少となりました。一方、海外での売上も、東南アジア市場、欧州市場向けなどが減少し、当連結会計年度における売上高は182億9千4百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

利益

利益面につきましては、利益率の良い一部の製品売上が減少したことに加え、日本及び中国での売上原価率上昇などが影響し、営業利益は14億2千万円（前年同期比26.7%減）となりました。経常利益は、急激な

円高などにより為替差損2億8千3百万円を計上したことから11億5千2百万円（前年同期比45.8%減）となり、また、特別損失で固定資産除却損5千1百万円などを計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は6億8千4百万円（前年同期比48.0%減）となりました。

来期の見通し

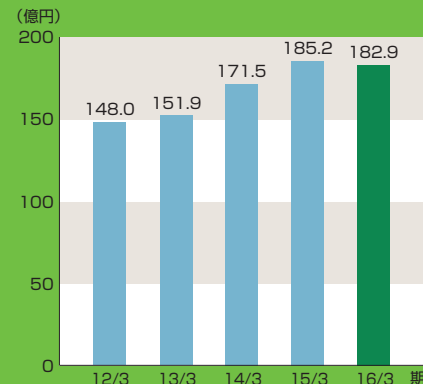
来期の経済見通しにつきましては、世界経済は、米国・欧州など先進国は比較的底堅く推移すると見られますが、中国経済減速とその影響を大きく受ける新興国経済は先行き不透明な状況が当面続くものと予想されます。一方、わが国経済も個人消費の伸び悩みや円高進

行による企業景況感悪化など、引き続き予断を許さない状況にあります。

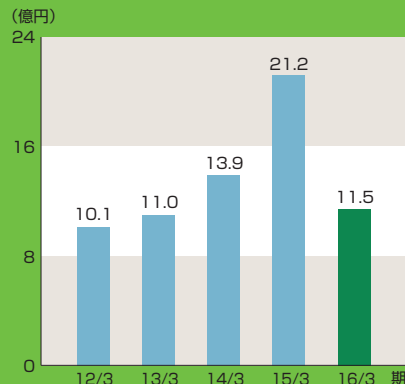
このような状況の中で、当社グループはさらなるグローバル展開を積極的に推進し、海外生産・売上の拡大を図るとともに、グループ全体での製造原価低減などによる収益体質の改善を継続的に進めてまいります。

来期の連結業績見通しとしては、売上高は179億4千万円、営業利益は10億5千万円、経常利益10億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益6億4千万円を見込んでおります。

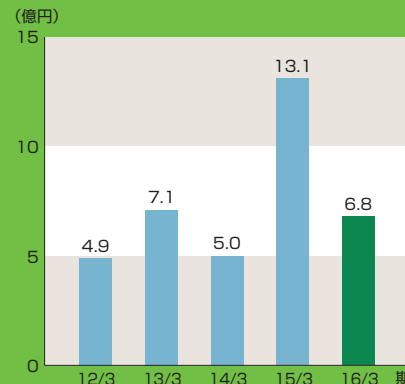
売上高



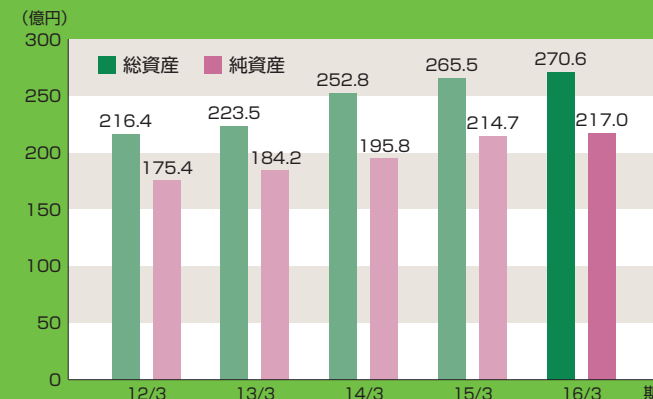
経常利益



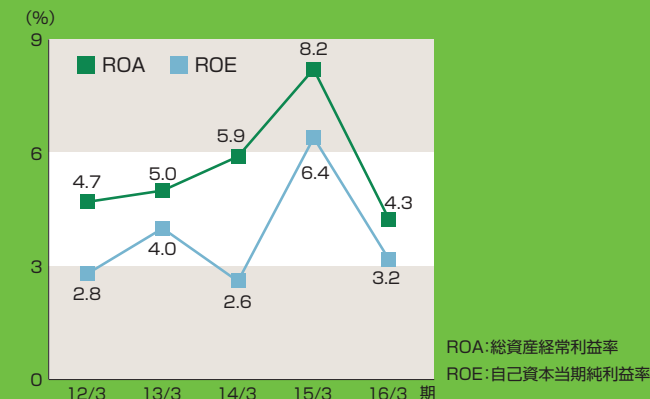
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産・純資産



ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率
ROE:自己資本当期純利益率

総資産

当期末の総資産は、前期末比5億1千2百万円増加して270億6千7百万円となりました。流動資産は同11億5千7百万円減少の132億4千3百万円、固定資産は同16億7千万円増加の138億2千3百万円となりました。

流動資産減少の主な要因は、現金及び預金が前期末比6億9千5百万円、商品及び製品が同3千8百万円、仕掛品が同2千1百万円、未収還付法人税等が同2億6千2百万円、その他が同1億6千5百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定資産増加の主な要因は、有形固定資産で建物及び構築物が同6億4百万円、機械装置及び運搬具が同8億6百万円、それぞれ増加したことなどによります。

負債

当期末の負債の合計は、前期末比2億8千8百万円増加して53億6千5百万円となりました。流動負債は同2億9千1百万円増加の45億6千8百万円、固定負債は同4百万円減少の7億9千7百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、未払法人税等が前期末比1億6千6百万円増加したことなどによります。

純資産

当期末の純資産は、前期末比2億2千4百万円増加して217億1百万円となりました。この主な要因は、その他の包括利益累計額が6千4百万円減少したものの、利益剰余金が2億8千8百万円増加したことなどによります。

なお、自己資本比率は前期末の80.9%から80.2%となり、1株当たり純資産額は前期末の1,545円05銭から1,561円19銭となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成28年3月31日現在	平成27年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		13,243,373	14,401,121
固定資産		13,823,794	12,153,655
資産合計		27,067,167	26,554,777
(負債の部)			
流動負債		4,568,189	4,276,356
固定負債		797,657	801,381
負債合計		5,365,846	5,077,737
(純資産の部)			
株主資本		20,428,130	20,139,740
その他の包括利益累計額		1,273,190	1,337,298
純資産合計		21,701,320	21,477,039
負債純資産合計		27,067,167	26,554,777

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成27年4月1日から平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
売上高		18,294,320	18,525,242
売上原価		12,448,995	12,199,103
売上総利益		5,845,325	6,326,138
販売費及び一般管理費		4,424,805	4,387,589
営業利益		1,420,520	1,938,549
営業外収益		63,967	237,945
営業外費用		332,106	49,690
経常利益		1,152,381	2,126,804
特別利益		1,496	4,042
特別損失		52,252	102,099
税金等調整前当期純利益		1,101,624	2,028,746
法人税等		417,071	711,490
当期純利益		684,553	1,317,256
親会社株主に帰属する当期純利益		684,553	1,317,256

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当期	前期
		平成27年4月1日から平成28年3月31日まで	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,169,648	689,850
投資活動によるキャッシュ・フロー		△3,353,917	△1,267,559
財務活動によるキャッシュ・フロー		△396,163	△208,543
現金及び現金同等物に係る換算差額		△115,232	142,674
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		△695,665	△643,578
現金及び現金同等物の期首残高		3,887,121	4,530,699
現金及び現金同等物の期末残高		3,191,456	3,887,121

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,142,500	2,167,890	16,037,951	△208,600	20,139,740	333,907	1,162,532	△159,141	1,337,298	21,477,039
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△396,163		△396,163					△396,163
親会社株主に帰属する当期純利益			684,553		684,553					684,553
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						△38,384	△63,157	37,433	△64,108	△64,108
当連結会計年度中の変動額合計	-	-	288,389	-	288,389	△38,384	△63,157	37,433	△64,108	224,281
当期末残高	2,142,500	2,167,890	16,326,341	△208,600	20,428,130	295,523	1,099,375	△121,708	1,273,190	21,701,320

ロシア モスクワ市に営業拠点を設立

2015.10

欧州現地法人(カネフサヨーロッパB.V./所在地:オランダ)のロシア拠点として、2015年10月に「モスクワオフィス」を設立しました。ロシアは石油・ガス・木材等豊富な天然資源を抱え、当社が強みを持つ木工、紙工、金属加工のいずれにおいても世界有数の規模と潜在力を誇る市場です。顧客サポートとマーケティング活動の強化により、既存市場のシェア拡大ならびに新市場への参入を図ります。



アメリカ アトランタ市に営業拠点を設立

2015.11

アメリカ現地法人(カネフサUSA, INC.)の南部営業拠点として、2015年11月に「アトランタオフィス」を設立しました。これにより、ジョージア州やその近郊に点在する既存顧客や潜在顧客に対し、効率的な営業活動が可能となります。また、同地域は自動車産業や航空機産業が非常に盛んであり、当社の金属切断用丸鋸や高精度工具の拡販が期待されます。この地の利を活かし、市場開拓を推し進めてまいります。



第三精密工場を竣工

2015.12



高精度刃具

2015年12月末、本社工場敷地内に第三精密工場が竣工しました。当工場では主に自動車部品等の精密加工に使用される高精度刃具を生産します。高精度刃具生産には、マイクロメートル単位の高い精度が要求されるため、それを可能とする空調環境などを備えています。

今後、高精度刃具の拡販を促進し、売上の新たな柱に育ててまいります。



建物延床面積	2,519m ²
建物構造	地上2階建 鉄筋コンクリート(1F)、鉄骨造(2F)

Information

会社概要 (平成28年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	686名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 仙台 広島 高松 福岡
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ド ブラジル LTDA. カネフサメキシコ S.A. DE C.V. 大口サービス株式会社

役員 (平成28年6月28日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	石田 信之
専務取締役	太田 正志	取締役	山川 寿康
常務取締役	西尾 悟	取締役	林 繁樹
常務取締役	鈴木 仁	取締役	磯谷 岳摩
常務取締役	春日 晃	取締役	森 隆生
取締役	萬谷 哲朗	社外取締役	辻中 修
		社外取締役	鮎澤 多俊

※ 森 隆生、辻中 修および鮎澤 多俊は監査等委員である取締役であります。

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	2,336名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,250	8.9
太田 万佐子	1,211	8.7
兼房従業員持株会	786	5.6
渡邊 浩	743	5.3
渡邊 美奈子	705	5.0
渡邊 将人	426	3.0
太田 正志	403	2.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	351	2.5
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

